

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町村受理日	令和4年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=2190103743-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は近くにスーパーや薬局、公園があり便利で静かな住宅街にあります。コロナ禍で感染予防に努めながら、入居後もその人らしい生活が継続できるようご本人を中心にご家族と職員が協力し、安心してのんびりと暮らせる環境づくりや個別ケアに努めています。ご利用者様の健康面では、訪問診療、訪問看護などと連携をとりながら、安心できる体制を整えています。
職員教育にも力を入れ、法人内での研修体制の充実を図り、幅広い世代で協力しながら質の高い支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、スーパーマーケット、薬局、クリニック、公園等も近い利便性の良い環境にある。職員は、利用者が入居前と変わらない暮らし方、その人らしく生活できるよう、日々寄り添い、共に笑い、共に生きられるよう支援に取り組んでいる。外部評価の自己評価作成には、職員一人ひとりが実践状況を振り返りながら関わっている。また、家族の協力を得て、利用者が安心して暮らせる環境づくりを行い、それぞれの状態に合わせた個別ケアに努めている。法人の研修体制が充実しており、職員は介護の質の向上とスキルアップに励み、医療関係者と連携を図りながら、利用者と家族の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく生きる」という理念を皆で心がけ、カンファレンスで振り返りながら実践しています。	法人の理念と各ユニット毎に考えた理念を掲げ、カンファレンスでも振り返りながら意見交換し、理念に沿った支援を実践している。職員は、利用者がその人らしく生き生きと過ごせるよう、共に笑い、共に暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して回覧板を回したり清掃活動に参加しています。コロナ禍となり地域の文化祭などが中止となって外部への参加が難しいが、再開されたら感染予防対策をしながら参加したいと思います。	自治会に加入しており、回覧板で地域の情報を得たり、事業所の取り組み状況を伝えている。地域の一員として、清掃活動への参加や下校時の見守り隊「子ども110番」を掲げている。コロナ収束後は、以前のような近隣との交流を再開予定としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物などを通して認知症の理解を深めて頂きたいと考えるが、外出や会話を控えるなどコロナ禍のためあまり取り組めていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、文書で現状報告をしています。感染対策や非常災害、コロナ禍でのご利用者様や職員のメンタル面などご意見を頂き、振り返りながらサービスに活かしています。	現在、運営推進会議は書面開催とし、事業所の運営状況、活動報告や計画等をまとめ、関係機関や会議メンバーに文書を送付し意見を求めている。メンバーからヒヤリハットや事故についての意見があり、今後の課題として話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染予防対策や非常災害時の避難確保計画などの報告や相談、成年後見人の相談など伝えています。	現在は、行政の会議も中止が多く、メール等で情報を受け、感染予防対策などに取り組んでいる。日頃から連絡を取り合い、困難事例や介護保険制度の動向について、助言や指導を受け、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で勉強会を開催、身体拘束となる具体的な行為を理解し、3ヶ月に1回「身体拘束を0にしよう検討会議」を開催、ご利用者様一人ひとり身体拘束をしないケアについて話し合っています。	”身体拘束「0」にしよう検討会議”を3か月に1回開催している。また、定期的に職員全体で拘束の弊害や虐待防止の徹底について、学習会を行っている。現在は身体拘束を必要とする利用者はいないが、拘束の可能性がある行為やスピーチロックについて確認し、回避する為にどうすべきかを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者のご自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人代表が毎月2回オンラインにて虐待の研修を開催、全職員が受講するようになっていく。年2回、職員より虐待についてアンケートをとって面談を行い、施設内でどんな課題があるか見つけ出し、防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要だと思われる方には行政への相談につなげています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の代表が説明、コロナ禍になってからはオンラインで行っています。管理者が立ち会い、不安点や疑問点を尋ね丁寧に説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来設時や電話などで要望を聞かせて頂いています。1年に1回、ご家族様アンケートをお願いし、結果について検討しながらサービスの改善につなげています。	年1回のアンケート調査で、家族の要望や事業所に対する意見等を把握している。毎月、「彩り通信」と共にサービス提供状況報告書も送付している。現在、家族と対面にて会話をする機会は少ないが、窓越しでの面会やZoom面会時に意見を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やカンファレンスで意見や提案を聞き、運営に活かせるよう話し合っています。	管理者は、介護現場にも入っており、日頃から職員の意見や要望、気付き等を聞いている。月1回の施設会議や日常のカンファレンスの中で、それらを検討しながら利用者サービスに活かしている。職員の資格取得を奨励しアイデアを取り入れながら、モチベーションアップに繋げている。定着率も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易いように職員の状況や生活環境に応じて柔軟に勤務調整を行っています。研修への参加、勤務状況など評価し賞与等に反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修・勉強会をオンラインにて開催しています。外部研修にも積極的に参加ができるよう協力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	質の向上のため、交流の機会を作ろうと積極的に考えてくれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で要望や習慣など確認し、安心して暮らせるよう環境を整え、良い関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもご入居前に困っている事や要望などをお聞きしながら、良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの困りごとや心配な事など傾聴し、その時に必要なご本人の利益に重点においた支援を考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方の立場になってしまわないように、ご利用様が出来る事は一緒に行うなどご利用様の気持ちに配慮しながらお互いを助け合う関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用様とご家族の絆を大切に、情報共有をしながら一緒にご利用様を支えていく関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や場所との継続した関係が続くように、コロナ禍でも工夫しながら、柔軟な対応ができるように努めています。	交通の利便性が良い地にあり、訪問者も多かったが、現在は、ガラス越しの面会とZoomによる面会で支援している。美容師の出入りは受け入れられている。コロナ禍であっても、感染対策をした上でドライブに出かけ、季節の花見や長良川鶺鴒船等を車窓から眺めるなど、気分転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同志の関係性を把握した上で、お話されている時の関わり方を見守り、介入が必要な時は入り、良い関係が保てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を求められたらいつでも応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を日々の関わりの中から汲み取り、職員間で情報を共有しご本人の希望に沿っているか検討しています。	居室訪問時や入浴介助などの個別支援時に、利用者の思いや意向を把握するよう心がけている。困難な場合は家族からの情報も参考にしている。新たに知り得た情報は職員間で共有し、利用者の思いを暮らしの中で活かせるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやモニタリング、日々の会話などからこれまでの生活を把握し、その人らしく生活できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の様子や出来る事、支援が必要な事などの把握ができるように意識しながら関わりをもち、カンファレンス等で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月毎にモニタリングを行い、ご本人とご家族の意向、身体状況も踏まえながら職員の意見やアイデア、関係者から意見を頂き、現状に合った介護計画を作成しています。	介護計画作りは、本人・家族の希望や介護記録を基に、職員、医師や訪問看護師の意見を聞きながら話し合っている。ケアマネジャーは、日々の利用者の状態を把握しており、関係者の意見を参考に現状に即した介護計画を作成し、再度、家族に報告をしている。	現在は、まだ難しい状況であるが、新型コロナ収束後には、家族と共に、利用者の暮らしぶり等を一緒にモニタリングしながら、家族参加での介護計画作成会議を行うなど、意見交換の機会にもなるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など記録物に残し、把握しています。その中からカンファレンスなどで情報を整理し、ケアの見直しや実践につなげたり介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の変化などの急なニーズに対して、柔軟な支援ができるよう複数で意見を出し合うようにしています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の得意なこと、好きなことを把握しながら、広報などからアイデアを見つけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時にかかりつけ医を説明相談、ご家族が選択されます。かかりつけ医とは良い関係が築けるよう努め、適切な医療を受けられるよう支援しています。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の指針を説明している。利用者は従前のかかりつけ医を継続し、個別に往診を受けたり、家族が同行して受診する人もある。結果報告を受けながら、利用者のかかりつけ医と良好な関係を築き、訪問看護師とも連携し適切な対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子などがあった場合、情報や気づきを記録し、週1回の訪問看護師との情報共有に努めています。24時間電話連絡がとれるため、体調不良などいつでも連絡、相談ができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と電話で情報交換し、ご利用者様の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、方針を親族で考えてもらっています。また体の変化の都度、説明相談しながら方針を決めて頂き、事業所でできることはご家族と共に支援させて頂いています。	入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所の指針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化時には早い段階で関係者が話し合い、事業所で出来る支援を説明し、家族の要望を受け止めながら適切な助言、対応を行っている。定期的に、看取りに関する勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時等、勉強会を開催していますが、実践力を身に付ける機会を増やしたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、水害訓練や避難訓練など行っています。反省や気づきから避難方法を見直し、慌てず避難できるよう備えています。	年2回、夜間想定を含めた災害訓練を実施している。器具の取り扱いや避難誘導、通報などを行い、消防署に実施報告書を提出している。県の防災課主催の説明会にも参加している。3日分の備蓄品の点検も定期的に行い、防災グッズも備えている。	災害対策については、近隣住民との協力関係が不可欠である。自治会長の協力も得ながら、運営推進会議や回覧版などを活用し、様々な災害に備え、地域との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーを損ねない言葉かけや一声かけてから介助したり、トイレの際は大きな声で話さないようにしています。法人内で「不適切ケアガイドライン」を作成中、言葉かけや対応方法についての啓蒙に力をいれています。	定期的にプライバシー保護についての研修を行いながら、利用者一人ひとりの人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。排泄や入浴介助時には、特に羞恥心に配慮し、排泄用品の収納も適切に管理している。現在、日頃の支援を参考に「不適切ケアガイドライン」を作成中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が希望される時は実現できるように努めています。ご本人のペースに合わせた方法で自己決定がしやすいよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様の行動に合わせ、希望に添った支援ができるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように好みを把握し、ご自身で服を選んだり、髪を整えたりと出来るように一人ひとりに合わせた方法で支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で味付けなどはご利用者様の希望を確認するなど一緒にしています。一人ひとりに応じた柔らかさや形状に応じて提供しています。盛り付けや後片付けを一緒に行なっています。	職員が食材の買い出しから調理まで、三食を手作りし、利用者もできる範囲で手伝っている。献立表の掲示で利用者同士の会話も弾み、食べる楽しみに繋がっている。個々の状態に適した形状や調理方法で提供し、完食できるよう食事時間にゆとりを持って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が1日を通して摂取できるように一人一人の様子を見て支援しています。少ない時は別の食べやすい物、飲み込みやすい物やお好きな物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じて声掛けや一部介助、全介助など口腔内の清潔が保てるように支援しています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように排泄パターンを把握して時間をみてトイレ誘導やパッド交換の支援を行っています。	個々の排泄記録を参考に、トイレでの排泄が習慣になるよう、昼夜とも声かけと誘導を行っている。布パンツ使用者もあり、職員間で話し合いながら、自立を維持できるよう支援している。排泄用品も利用者の状態に合わせて、適切に組み合わせるなど工夫している。夜間はポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では食物繊維が多い食材を調理提供、乳酸菌飲料や果物を提供したり、運動のお誘いをするなど、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様のペースやタイミングに合わせて、望まれない時は変更するなど希望に添えられるよう取り組んでいます。入りたい希望の時に入浴が出来るように支援しています。	週2回を基本に、利用者の希望に応じて入浴できるよう準備をしている。職員は、コミュニケーションを図りながら、利用者が気持ちよく入浴ができるよう介助と見守りで支援している。リフトの設置もあり、安心安全な支援と職員の身体的負担軽減にも繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムや体調など状況に合わせて休息したり、一人ひとりの習慣を大事にして気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に目を通して理解に努めています。変更が合った場合は申し送りをして把握に努め、飲み忘れや誤薬を防ぐため声出し確認を行っています。飲み辛い場合は薬剤師に相談アドバイスもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ方が違うことを考慮し無理強いすることがないように心がけています。得意なことを活かして趣味や家事のお手伝いなど気分転換できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りなど外出の時に声をかけさせてもらっています。コロナ禍で外食などは出来ないが、短時間の散歩やドライブに行っています。	天気の良い日には庭に出たり、下校時の子どもたちを見守っている。現在は、以前のように観光地や賑やかな場所に出かけることは出来ないが、近隣を散歩したり、車窓の景色を楽しむ程度のドライブで気分転換を図るなど、今、出来る事で支援を行っている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理を希望される方にはご家族には管理が難しい事を了承頂いたうえでお渡ししています。今はコロナ禍のため希望される買い物は代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだり、ご利用者様自身が携帯電話を持っており、操作の支援をしています。年賀状、暑中見舞いなど季節の手紙のやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が居心地よく過ごせるように、共用の空間には刺激が少ないように配慮し、季節が感じられるように花など飾っています。	共用空間は広く、整理整頓されており、福祉用具が必要な利用者も安全に移動することができる。大きな窓からは、車の往来や地域住民の生活ぶりを眺めることができ、子ども達の声も聴こえる。昼間はリビングで過ごす利用者も多く、季節の花や利用者の作品を掲示し穏やかに過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士で過ごせたり、自由に過ごせるよう雰囲気作りに気を付けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込まれたり、家族の写真や飾りなど居心地よく過ごせるようご家族に協力いただきながら居室が整うよう支援しています。	風通しの良い居室は、広く安全に利用できるよう整理整頓されている。使い慣れた家具を置き、小物や思い出の作品を飾っている。現在は家族との面会を制限しているため、職員と一緒に部屋を掃除し、清潔に暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて声をかけたり見守りを行いご利用者様が自立して過ごせるよう努めています。危険が無いよう動線を意識しながら物を配置したり、目印をつけて分り易いようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和4年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由に笑って過ごしましょう」を2Fの理念としカンファレンスなど通じて話し合い実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動などに参加しています。コロナ禍で地域の文化祭等が中止しているが再開されたら感染対策に注意しながら参加したいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物など通じて認知症の理解など深めて頂けるとよいと考えているが、外出や会話を控えているなどあまり取り組めていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書で現状報告しています。感染対策や非常災害等ご意見を頂きサービスにいかしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染予防対策や避難確保計画等防災のことなど報告、成年後見人の相談に乗ってもらっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回「身体拘束0にしよう検討会議」を開き身体拘束の可能性とそれを回避するための対策を話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月2回研修を通じ、虐待防止への理解を図っています。職員間で虐待を起こさない、見過ごさないように努めています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要だと思われる方には行政への相談につなげています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の代表が説明、コロナ禍になってからはオンラインで行っています。管理者が立ち合い、不安点や疑問点を尋ね丁寧に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート調査をお願いし意見や要望を聞き事業所職員で共有し今後の運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議等やカンファなどで業務内容などの意見や提案を話し合い、反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人の努力や実績勤務状態等を把握し、勤務調整など柔軟に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修・勉強会をオンラインにて開催しています。外部研修にも積極的に参加が出来るよう協力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	質の向上のため、交流の機会を作ろうと積極的に考えてくれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で要望や習慣など確認し、安心して暮らせるよう環境を整え、良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも入居前に困っていることや要望などお聞きしながら、良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの困りごとや心配な事など傾聴し、その時に必要なご本人の利益に重点をおいた支援を考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは共同生活の場であり職員は家族の一員と思って、好きなこと、出来ていることは一緒にいき、出来ること出来ないことを見極め、ご利用者様が困ったときにはさりげなくフォローする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との絆が途絶えないようにケアプランの中で家族が担っていただく役割を位置づけ、関わりを続けて頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今、コロナ禍で疎遠になりがちですが、いろいろな方の協力があってオンラインで参加して頂き、関係が途切れないよう支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな性格の方がいらっしゃるの孤立しやすい方にはスタッフが関わり、他者と交流ができるように配慮させて頂くよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を求められたらいつでも応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いや意向を毎日の会話の中からくみ取り、会話が困難な方については表情や生活歴などで検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時のアセスメントを基に日々の会話や関わりの中で、これまでの経過を把握する様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や心身の状態を記録に残し、その方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にモニタリングを行い、ご本人とご家族の意向、身体状況も踏まえながら職員の意見やアイデア、関係者から意見を頂き、現状にあった介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など記録物に残し、把握に努めています。それらからカンファレンスなどで情報を整理し、ケアの見直しや実践につなげたり介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも柔軟な支援やサービスが出来るように知識を広め、地域の資源の確認に努めています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の得意なこと、好きなことを把握しながら、広報などからアイデアを見つけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望のかかりつけ医としており、受診できるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には週1回報告、相談しています。身体の変化に気付いたら、24時間いつでも電話相談ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは電話で情報交換し、ご利用者様の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、方針を親族で考えてもらっています。また体の変化の都度、説明相談しながら方針を決めて頂き、事業所でできることはご家族とともに支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時等、勉強会を開催していますが、実践力を身に付ける機会を増やしたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、避難、自信や通報訓練を行っています。反省やその時の気づきなど次の訓練に活かすように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、言葉使いには十分気を付けています。特に排泄や着替え、入浴時など羞恥心に配慮した言葉を選んで、声かけをするように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に希望を聞き実現できるように努めています。自己決定が難しい方に関しては「これはどうでしょうか？」と1つつつ聞くように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのペースを大事にして、希望に沿った生活が出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、選ぶのが難しい方には職員から提案させて頂くなど支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けの相談や食後の後片付けを一緒に行っています。嫌いな食材や食べにくい物はご利用者に合わせて、食べやすいように工夫し提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、確保できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様に合わせた口腔ケアの支援を行っています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりのパターンを把握しトイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、歩くなど運動をすすめるなどして自然に排便ができるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に合わせて支援し、二人介助が必要な方には安心して入浴出来るように十分配慮して支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで安心して休んで頂けるよう室温に気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れしない、誤薬を防ぐために声出し確認をしています。飲み辛い場合は薬剤師に相談アドバイスを頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好きな物や、やりたいことがあれば希望に合わせて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出はあまりできていないが、ドライブで車の中から景色を眺めて頂くなどできる範囲で支援しています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望によりお金を所持し使ったりされている方もみえますので支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、電話したい方はおつなぎしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように壁面などに飾り物をしたり、居心地よく過ごせるようにこまめに掃除するなど気を付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子に座ってのんびり一人になれたり、誰かしら人の気配を感じつつゆったりと過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に以前から使用されていた馴染みの物を置いたり、会話の中で出てきた物などあれば、ご家族に相談させて頂くなど支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないよう物の配置に注意し、自立した生活が継続できるよう、その方に合うように工夫しています。		